

2009年 世界エイズデー

交通運輸労組、 職場での偏見と差別に挑む

世界で初めてHIV/エイズ患者が1981年に報告されたとき、これほど世界に蔓延し、数百万もの人々の生活を変えることになるとは想像もされなかった。わずか27年間で、2,500万人もの人々がエイズ関連疾患で命を落としている。

最新の国連エイズ合同計画（UNAIDS）の報告書によると、HIV/エイズの感染者数は、受け入れがたい程に高水準ながら、世界的には安定している。しかし多くの国で、エイズの感染者数が増えている。治療へのアクセスが妊婦を中心に増えた一方、抗レトロウイルス薬の供給を受ける感染者2人につき、新たに5人が感染しているという厳しい現実がある。

世界エイズデー（12月1日）は毎年、まず第一にエイズによる死者や生活が一変した人々に、私たちが思いを馳せる機会を与えてく

れる。それからエイズの現状や、どうすればより効果的に対応できるかについて考えさせてくれる。ITFは、職場におけるHIV/エイズ撲滅行動に取り組んでおり、この命にかかわる感染症と闘っている何百万人もの組合員を支援し、人権に配慮した治療、プライバシー/守秘義務の尊重、HIV/エイズ治療への平等なアクセスの確保を推進している。

ITFは4年連続で、職場での偏見と差別に照準を合わせた、長期的なHIV/エイズ撲滅キャンペーンに取り組んでいる。世界中のITF加盟組織は、2009年世界エイズデーに、積極的にさまざまな活動を実施した。2009年12月7日現在、すでに25カ国・60加盟組織から各々の活動についての報告が寄せられている。さらに多くの加盟組織から報告が届くだろう。その一例を。ここで紹介する。

エルサルバドル航空労組（SITEAIES）は、組合員のためにエイズについてのセミナーを開き、VCT（HIV検査とカウンセリング）を受けるよう奨励した。（key 参照）

ベルギーの交通運輸労組（BTB）は、職場にエイズ撲滅キャンペーンポスターを掲示し、討論会を開催した。

トーゴの港湾労組（SYNTRAPAL）は、HIV/エイズや他の性感染症に対する偏見をなくそうと啓発運動を実施した。また、特別VCTセッションも開いた。

セネガル船員労組（SNTMM）の青年グループは、討論会を実施し、12月1日の世界エイズデーに集会を開催した。

コロンビアの路面交通運輸労組は、組合員とその家族のために討論会を実施した。

シエラレオネでは、ITFに加盟している5労組（船員、港湾、漁船員、路面運輸）が、船員福利センターでミーティングや討論会を開いた。

バルバドスではITF加盟組織が、職場代表（約80名）を対象としたエイズに対する偏見・差別解消をテーマにセミナーを開いた。

ガーナの全国交通運輸・石油化学労組は、使用者や政府機関、その他の関係者と討論会を実施し、HIV/エイズ感染予防および介護や支援の提供で協力し合う重要性を訴えた。また、HIV/エイズに関するパンフレットを発行した。

ガイアナの事務・商業労組（CCWU）は、VCTを奨励するため、特別討論会を主催し、全国検査週間に参加した。また、職場でコンドームを配布した。

アルゼンチンのエンジニア労組（Centro de Jefes y Oficiales Maquinistas Navales）は商船大学と協力して討論会を実施し、ITFのドキュメンタリー「Highway of Hope」（希望のハイウェイ）を上演した。

ナミビア交通運輸関係労組（NATAU）は雇用者と協同して、全ての加盟組合の職場内でセミナーを実施した。また、特別ニュースレターを発行した。

エチオピアの交通運輸通信労組（ETCW）は、交通運輸部門の HIV/エイズに関する組合調査結果を広めるためにセミナーを実施した。また、特別ニュースレターを発行しビデオを上演し、サクセスストーリーに基づく経験談を共有するための会議も開催した。労働者を集め、VCT を受けるよう呼び掛けた。同組合の女性委員会も、これらの活動に積極的に参加した。

ウクライナの海上交通運輸労組（MTWU）は、海事大学でセミナーを実施した。港湾区域や船員センター、その他の職場で、ITF のキャンペーン資料を掲示した。

バングラディッシュの鉄道労組（REA）は、ITF のポスターを職場に掲示し、労働者に配るためのビラを作成した。また、職場で HIV/エイズに対応することの重要性を扱った、日刊新聞掲載記事を執筆した。

ITF 東京事務所は、連合が主催した HIV/エイズ特別展示会に参加し、ITF の関連発行物やキャンペーン資料を展示した。また、HIV/エイズに関する ITF 加盟組織の活動をテーマとした写真展を開催した。

ケニアの鉄道労組（RWU）は、エイズ検査の普及を図り、エイズを取り巻く沈黙の壁を打破するための特別 VCT セッションを実施した。職場での偏見と闘うための討論会を実施した。

ネパールの交通運輸労組（NETWON）は、全国的に啓発セミナーを開催した。また、様々な職場で、ポスター・ステッカーの展示を行った。

ウガンダの交通運輸・一般合同労組は、米 国 労 組 連 帯 セ ン ター お よ び 輸 送 大 手 TNT 社 の 慈 善 財 団 ノース・スター・ファンデーションと共同運営している異なる健康センターで、数々のプログラムを実施した。

タイの ITF 加盟組織は、様々な職場にキャンペーン資料を配布した。

インドネシアの船員組合は、出港する船員のために特別セミナーを実施し、ITF のポスターを配布した。

スリランカ船員組合は、HIV 感染者・エイズ患者を支援するための会合を開き、海事部門の HIV/エイズ撲滅の横断的なアプローチの必要性について話し合い、ITF の資料とコンドームを配布した。

ザンビアのバス・タクシー労組は、職場でエイズ啓発プログラムを実施した。

ボツワナの ITF 加盟組織は、トレーナー要員を組織し、職場の労働者のための勉強会を実施した。勉強会ではエイズに対する偏見や差別、特に HIV 陽性者が関係する場合について焦点を当てた。

南アフリカ交通運輸合同労組（SAWATU）は、使用者側と共同で、VCT の普及と ARV（抗 HIV 薬）治療の登録を促進するためのプログラムを実施した。

アダルシャ自動車・タクシー運転手労組（AATDU）、インド前進的船員組合（FSUI）、全インド鉄道員連盟（AIRF）の南鉄道アズドラ労組などのインドの ITF 加盟組織は、労働者とその家族のために討論会を実施した。民間自動車運輸労組（PMTWU）は、組合員のために教育活動を実施した。また重要な公共の場でブースを設置し、啓発のための資料を配布した。ムンバイの交通運輸・港湾労組（TDWU）は、港湾労働者のために寸劇を上演し、ITF のキャンペーン資料を展示した。カンドラの交通運輸・港湾労組は、港湾敷地内や鉄道病院に啓発のためのブースを設けた。また、港湾に乗りつけるトラック運転手のために、「ヘルスクャンプ」を特設した。

オーストラリア海事労組（MUA）は、全国集会を開催した。同労組の全国青年大会が 12 月 1ー3 日に開かれ、キャンペーンを重点的に討議し、HIV/エイズに関する決議を採択した。

用語

VCT : HIV 検査とカウンセリング

ARV : 抗 HIV 薬